

2025年版
えほん

2025年1月~12月に発行された本の中から
とくにおすすめの本を紹介します

ビーだまのようにキラリと光る一冊を

ビーだま

ブックリスト「えほん」2025年版 No.51

【編集・発行】富山市立図書館 富山市西町5番1号/TEL 076-461-3200
令和8年4月23日発行(年1回発行)



おはなのおはなし

たかどのほうこ／著 のら書店

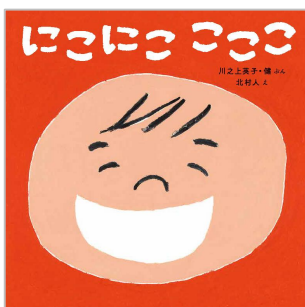


小さな一輪の花が咲きました。カンカン照りの日差しを浴びたあとは、雲の日陰でほっと一息。激しい雨に打たれ、風に吹かれる日もありますが、赤い花は少しずつ大きくなっていきます。

花を見守るお日さまの視線があたたかく、成長の喜びが伝わってきます。 [赤ちゃん~]

にこにこここ

川之上英子／ぶん 川之上健／ぶん 北村人／え アリス館



あかちゃんが、にこにこ。犬は、もこもこ。最後はみんなで、にっこにこ。「こ」で終わるリズムカルな言葉とともに、家族や動物など、赤ちゃんが好きなものが次々と登場します。

声に出して楽しい、言葉遊びの絵本です。

[赤ちゃん~]

さくらふわりくるり

鬼頭祈／さく 小峰書店



桜の見ごろが終わり、ひらり、くるりと、花びらが風に乗って踊り始めます。ちょうちょやつばめと一緒に、ふわり、くるり。たんぽぽの綿毛とともに地面に降り立ち、「またね」と土に還ります。

日本画の技法をいかしたやわらかな筆使いで、春のあたたかな雰囲気伝えます。

[幼児～]

はじめてのうみ

山下明生／文 くすはら順子／絵 ひさかたチャイルド

女の子は、まだ海を見たことがありません。電車に乗って、期待を膨らませながら海に向かいます。

初めて入る海は、冷たくていい気持ち。ところが、水平線からのぞく真っ白な入道雲を眺めていると、急に激しい雨が降ってきました。

夏ならではの体験を臨場感たっぷりに描きます。



[幼児～]

なにかいいことあった？

ミーシャ・アーチャー／作 石津ちひろ／訳 BL出版

「いいこと」を探すため、ダニエルは公園をめぐります。カモはひながかえたこと、オタマジャクシは足が伸びたことを教えてくれました。

生き物たちの喜びの声を聞いているうち、ダニエルは自分の体の成長や、できることが増えたことに気づきます。

[幼児～]



ほら、トラがいる！

フィリップ・アーダ／文 デイヴィッド・メリング／絵 なかがわちひろ／訳 BL出版



ペニーが満員電車に乗っていると、しましまのしっぽや、毛むくじゃらの足が見えました。隣に座っているのは間違いなくトラなのに、お父さんは新聞に夢中で見向きもしません。

この秘密に気がつくのは、ペニーと小さな男の子、そして読者である私たちだけで、ワクワクしてしまいます。 [幼児～]

くまのおやこのきょうはさかなつり

エイミー・ハスト／文 エリン・E.ステッド／絵 青山南／訳 光村教育図書

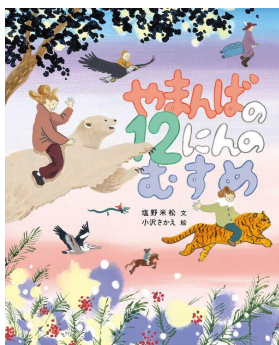
お父さんぐまとこぐまが釣りに出かけます。持ち物は、長靴に釣りざお、焼きたてのスコーンに、おはなしの本。準備万端でじっと待ちますが、魚は1匹も釣れません。そこで、ふたりはおいしいスコーンを食べて、本を読むことにしました。

ゆったりと流れる親子の時間をほのぼのと描きます。 [幼児～]



やまんばの12にんのむすめ

塩野米松／文 小沢さかえ／絵 農山漁村文化協会

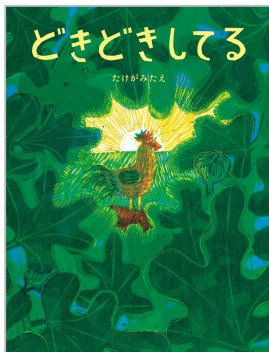


今日は12年に一度の12月12日、やまんばの12人の娘たちが集まる特別な日。山奥では、やまんばと動物たちが準備に大忙しです。娘たちはみんな食いしんぼうで、鍋いっぱいのスープに南の国のフルーツ、300個のおもちも、おしゃべりしながらあっという間に平らげてしまいます。

豪快で愉快的な物語です。 [幼児～]

どきどきしてる

たけがみたえ／著 偕成社



胸がどきどきするのは、どんなときでしょうか。一生懸命に走ったとき。けんかをしたとき。新しい自分に変化するとき。好きなものについて考えるとき……。明日何をしようか考える「わたし」も、どきどきしています。

さまざまな生き物たちの心が動く瞬間を、力強い木版画で描きます。 [幼児～]



みてみて！

小西貴士／写真 谷川俊太郎／ことば 福音館書店

くもの巣についた雨粒、手のひらより大きな霜柱など、子どもたちが自然の中で見つけた面白いものが、次々と登場します。絵本の中から「見て！」と声が聞こえてきそうな、生き生きとした瞬間を切り取った写真絵本です。

巻末に、これらの写真から生まれた詩が添えられています。 [幼児～]



かみなりせんによといなづませんによ

ハン・ガン／ぶん チン・テラム／え さいとうまりこ／やく 小峰書店



仙女たちは空の国で雲をつくって暮らしています。ところが、そんな毎日を退屈に感じている2人の小さな仙女がいました。2人は特別な仕事を頑張る代わりに、広い世界を旅することを許してもらいます。

2024年にノーベル文学賞を受賞した韓国の作家が、子どものために書いた物語です。 [幼児～]